

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入所期間を共に認知症状が進行しているものの、その人らしく生活できている。職員も理念を共有しており個別に対応できている。	法人理念とケア理念が作られている。玄関、食堂、事務室にケア理念が掲示してあり来訪者も目にすることが出来る。ケア理念にあるように利用者はやれることをやり、自分らしさや達成感の中で生活を営んでいる。スタッフ会議で振り返り、また、理念にそぐわない言動が職員に見られた時には管理者やケアマネージャーが随時注意を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長さん、民生委員さん、ボランティアさん、小学校、中学校との交流があり、地域に根ざしたグループホームになりつつある。	敷地内に管理者宅があり、管理者が区費の支払いをし回覧板を受けている。小中学生との交流が継続的に行われており、今年も音楽会や運動会、文化祭に招待され全員で参加した。運動会では最後に全員での地元の踊りにも参加した。紙芝居や歌、ハーモニカなどのボランティアの訪問もある。近所の方から沢山、野菜や果物の差し入れがあり、献立を変更して食卓に上げることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校との交流を重ね、学校側より認知症の人との関わり方を教えてほしいと依頼があり、子供達にアドバイスの説明する機会が合った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1年間のテーマを決めて、1回/2ヶ月、会議を行っている。テーマごとにメンバーに参加して頂き率直な意見を頂いている。	利用者、利用者家族、区長、民生委員、ボランティア、小学校教頭、消防署員、市職員、地域包括支援センター職員などで構成され2ヶ月に1回開催している。年間のテーマを決め話し合いをし、会議の内容も充実している。毎回違う家族の参加をお願いし、多くの意見が聞ける工夫をしている。職員も参加し委員とともに救急救命や感染症対策の研修を受けることもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等で直面している課題の話し合いを行っている。	3ヶ月に1回市より介護相談員2名が派遣されている。市から介護度3以上の方へ理美容の割引券とオムツ券が支給されており日常生活の中で利用している。介護認定の更新はホームに住民票がある方はホームより申請し、家族より依頼のある方は代行申請している。認定調査はホームで行い、家族が同席することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。必要な場合は書面にて家族の同意を得ている。	スタッフ会議で「身体拘束について」の話をし全職員が理解している。玄関の鍵は掛けていない。2階から移動するエレベーターは規制することなく自由に乗ることが出来る。ベッドからの転落が予測される利用者については家族の同意を得て、夜間のみベッドの柵をしたり布団を床に敷いて休むなどの試みをし、経過も記録している。病状が改善された時には即時解除している。	

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い、職員に徹底させている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解はしているが、現在活用されている方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、退居時等、十分な説明を行っている。小遣い帳等も家族に時々確認印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のメンバーに2家族が出席されており、疑問点や意見を述べていただく機会がある。	利用者からは日ごろの暮らしの中で要望等を聞き、家族からは来訪時に希望や要望を聞き対応している。平成24年に家族会が作られた。家族に総会やバーベキュー大会、クリスマス会への参加を呼び掛け、家族と利用者、職員との交流の機会も多くなった。多くの家族の意見を聞けるように、運営推進会議にも毎回交代で参加をお願いしている。3ヶ月に1度「こだま便り」を発行し家族へ送り事業所の活動についても理解をしていただくようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月、スタッフ会議を実施しており職員の意見や提案を聞く機会があり反映されている。	統一的ケアを図るという目的で1ヶ月に1回スタッフ会議を開いている。研修会の報告を兼ね勉強会をしたり、利用者のモニタリングや活動予定等を話し合っている。利用者一人ひとりについての気づきやケアについての共有化も図っている。会議では意見交換が活発に行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員は、1年間の目標を掲げ向上心を持って働いている。又、希望休もできる限り受け入れ、働きやすい職場に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの為、職員が交代で研修にいくように務めている。又、学んだ研修についてはスタッフ会議のときに発表をもらい、全員が共有できるようにつとめている。		

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会を、3回／年行っている。各事業所ごとに当番が決まっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階で、ご本人の情報を詳しく得ること。たとえ自ら訴えられなくても、表情やしぐさから受け止め安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っていることや不安なことはできるだけ受け入れ、家族の負担や心配事が軽減できるように努めている。特に医療面での生活が多い。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人のできる部分、できない部分の見極めをしっかりとモニタリングをし、サービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を一緒に干したり、たたんだり、掃除を一緒にしたり食器を拭いたり、スタッフと常にとともにしている。達成感もあり生き生きと生活されている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	バーベキューや、クリスマス会等、イベントを計画し家族との絆を保っていけるように努めている。家族会も開催している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高丘小学校4年生と3回／年の交流や運動会、音楽会のステージ練習にも招待して頂いた。又中野平中学校の文化祭に招待された。ふれあい委員会の生徒さんから毎年、空き缶の回収で得たお金でプレゼントが届く。	友人や知人なども高齢になり、家族以外の訪問は年々少なくなっている。馴染みの美容院へ職員が送迎をすることもある。他県に住む家族がお盆やお正月に帰省し、自宅に一時帰宅することもあるが、利用者がホームへ帰ることを希望し短時間で戻ってくるという。利用者は馴染みになった小中学校の児童・生徒との継続的な交流を楽しみにするようになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション・体操等、利用者さん全員が孤立せず関わりあえるような場面がたくさんある。		

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移設された方の面会に行ったり、ご本人の経過を見守っている。又、亡くなった方の出棺のお手伝いや火葬場での見送りもさせて頂いた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向をケアプランに反映している。高齢と共にご本人の希望通りにならない部分があるが、どんな小さなことでもご本人の意向にそえるように努めている。	大半の方が言葉で意思を伝えることができる。日々の行動や表情、声がけに対する反応等を記録に残し、利用者全員に同じやり方で支援するのではなく、利用者の出来る方法を見つけつつ一緒に行うことで一人ひとりの達成感を味わっていただいている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人の得意としている事(できること)に働きかけて、今までの馴染みの暮らし方が。1つでも取り入れられるように情報を収集し把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生き生きと生活できるように、その人の有する力に応じ、レクリエーションや歌、体操、散歩を行っている。歌は利用者さんからのリクエストにより新曲にも挑戦している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	できることに働きかけ、本人のレベルに合ったプランに心がけている。又、意欲的に取り組める内容に心がけている。	利用者、家族の希望を聞き、ケアマネージャーが介護計画を作成している。職員1人が1名の利用者を担当し日々の気づきをスタッフ会議で報告している。3ヶ月で見直しをし、状態の変更があれば随時見直しもしている。家族がホームへ来訪した時にケアプランの説明をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ADLの変化や、医療面・精神面の変化がわかる記録に心がけている。又、1回/月スタッフ会議を開催し、気づきや統一ケアに心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	分割食を取り入れながら体調面でのサポートを行ったり、美容院の送迎を行ったりご本人の希望を取り入れている。又、お誕生会では希望されるメニューで対応するなど柔軟な対応をしている。		

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の区長さん、民生委員さん、ボランティアさん、学校、病院、消防署との関係を密にし、安心して豊かに生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の状態を詳しく主治医に伝えている。又、馴染みの医療機関で治療を継続できるように支援している。	基本的にはかかりつけ医の継続をお願いし、受診の付き添いは家族にお願いしている。家族が付き添う時には口頭で現状を説明し、医師には文書で伝えたり管理者が同行し説明している。市のレントゲン車がホームまで出向いてくれるので全員が検診を受けている。昨年は利用者のかかりつけ医の往診でインフルエンザの予防接種を実施した。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活記録、医療面での記録を分けている為、その人の経過が把握できる。又、1回／週の訪問看護師の相談援助もある。体調面の変化があれば早めの受診を受けれるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	重症化しないよう、早期受診に努めている為、入院される方は少ない。かかりつけ医との連携は密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「リビングウィル」ご本人の意向を大切にしている。事業所のできることを伝えてどこまで支援できるか、話し合っている。老健施設へ移設された方もいる。	契約時に利用者より「私の医療に対する希望」を文書でいただき本人の意向を確認している。終末期になった時点で文書を基に家族と話し合いを持ち意向を確認している。ホームの一員として終末期を送り、今年4月のある日、10時のお茶の時間を他の利用者と過ごした後、お昼の時間に容態が急変し旅立たれた方がいた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1回／年心肺蘇生法を救急救命士による研修を行っている。今年は、運営推進会議のテーマとして、メンバーと職員全員が指導を受けた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時、2階から階段で全員の利用者さんを避難させることができた。又、担架も実際に使用した。	春と秋の2回、消防署に計画書を提出し「昼間想定」、「夜間想定」で避難訓練を実施した。通報訓練や消火訓練も消防署指導の下、行った。利用者、職員の他に近くの住民の方の参加もあった。設備点検は毎年業者によって実施されている。全員がAEDの研修を受けている。災害時用の食料品、日用品の備蓄は1週間程度準備されている。	

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室対応としており、気兼ねなく過ごすことができる。又、汚染した衣類は速やかに着替え、常に清潔な衣類を身につけていただくよう配慮している。	利用者自身が呼び名を希望することはなく、名前や苗字に「さん」づけで呼んでいる。個人情報の保護については契約時に文書で説明している。ホームの「こだま便り」に写真を掲載することを説明し、了承を得るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「ベストを編みたい」と希望があり、数名の方が挑戦し、完成した達成感を味わうことができたり、受診の際に着用して行き、主治医に褒めていただいた。風船パレーでは、仲間同士「50回は落とさないで頑張るよ!」と目標を決めて取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室で過ごされたい方は自室で過ごせるよう支援していた。又、畑作業の得意な方は一緒に作業を行い、自主的に取り組めるよう見守っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの洋服を本人が選べるようにしたり、美容院への支援や職員によるカットやカラーリングをし、お洒落にも配慮し外部者から、皆さん若々しいと言われる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元、ホームの畑の新鮮な野菜を使っている。お米は、もみで購入し、精米して食べている。準備や後片付けも役割を持って行って頂いている。	テレビを消して職員手作りの料理を職員と一緒に食べている。誕生会には希望を聞き、おはぎやおやき、お寿司など希望に沿っている。身体機能の低下とともに外食があまり出来なくなってきたためホームの食堂を寿司屋に見立て、暖簾で飾り付けをし祝っている。一部介助や分割食などで個々に対応している。お粥はいつも用意されている。ホームの菜園の野菜や近所の方からの差し入れの野菜・果物などが食卓に上ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1年間の献立を作っており、栄養のバランスに配慮している。脱水や消化吸収の良い食事に心がけている。又、5回/日の分割食の対応もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄剤を使用したり、舌のブラッシングをしたり、口腔内の清潔や誤嚥性肺炎の予防として3食後、全員の方が口腔ケアを行っている。		

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を付け、一人ひとりの排泄パターンを確認し、トイレ誘導を行っている。ほとんどの方がトイレで排泄を行っている。	多くの方がリハビリパンツを使用している。排泄記録表をつけ、基本的にトイレでの排泄を行い、時間で声掛けしている。夜間のみ安全のためにホータブル使用の方がいる。衣類の上げ下げや排泄後の介助など個々の対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を内服されている人もいるが、水分や運動をし、体を動かし、便秘予防に取り組んでいる。野菜も多く摂取していただくように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎週月曜日、木曜日に入浴を行っている。夏場は土曜日にシャワー浴を取り入れ行っている。	少し大きめの浴室と浴槽で4人位まで一緒に入ることが出来、お風呂の日には安全に楽しく入浴出来るように職員を1名多く配置している。車椅子の方はリフト使用で浴槽に浸り入浴している。今はお風呂を嫌がる人はいない。柚子湯などの季節のお風呂や色の淡い入浴剤を使い楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意向も聞き排泄介助をし安眠していただく。夜間は2時間おきにトイレ誘導を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食前後の服薬について直接本人に渡し飲んでもらい確認しています。服薬介助も行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔やったことのあるレクリエーションを取り入れ、利用者さん各自の得意とすることをやっていただく。歌等得意な人には率先できるようにマイクを渡し、畑の好きな方には世話、収穫をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じ外出の支援を行っている。又、通院介助の外出支援も行っている。6月、職員の人前結婚式がバラ公園で挙行され利用者さん全員でお祝いできた。天気の良い日には、敷地内の散歩も積極的に行っている。	お天気の良い日には広い敷地内を散歩している。ホームの菜園があり雑草が目につくと散歩が草取りになったりすることもある。桜、菜の花等の花見をドライブを兼ねて行っている。今年のバラ公園の見学は職員の結婚式とも重なり全利用者9名が参加できた。	

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さんの趣味の編み物の毛糸をスタッフと共に買いに行ったことがあるが、紛失の恐れがある為所持はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話をかけたっている。又、家族からかかってきた時には、取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には手すりが付いており、掴まりながら歩行されている。利用者さんの動きをスタッフがよく把握できる様な空間になっている。室温の管理もエアコンを使い居心地よく過ごせるようにしている。	昼は1階の食堂で過ごすことが多い。壁には参加する運動会や文化祭、職員の結婚式の日印のあるカレンダーやスナップ写真、色紙など飾られている。四方から光が差し込み、窓や玄関からは風が入り、気持ちのいい室内であった。2階の共有空間にもソファが置かれ、昼寝をしないという利用者が職員と一緒に座りおしゃべりしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者さん同士のトラブルを防ぐ為、座席の配置などに工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、お位牌、小物を自分好みに配置している。掃除も毎日行い、常に清潔に保ち、快適に過ごされている。	備え付けられているのはベッドだけで、タンス、収納ケース、テレビ、机、イスなど、自宅から馴染みの物が持ち込まれている。毎日職員と一緒に居室の掃除が行われ、整理整頓されている。制作中の編み物が置かれている居室、好きな小説や週刊誌が並んでいる居室なども見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には、表札、トイレの入り口には“お手洗い”の案内がある。床はバリアフリーになっており、エレベーターも設置している。		